

審議会等議事概要

平成20年度 滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議 第2回役員会 議事概要

| | |
|------|---|
| 日時 | 平成21年3月26日(木曜日)午後6時00分～午後7時05分 |
| 開催場所 | 滝川市役所7階 701会議室 |
| 出席者 | 土居委員長、菊地副委員長、川西常任理事 事務局等：小田教育長、高橋教育部長、早瀬教育部指導参事、吉川学校教育課長、 杉原学校教育課副主幹、岩田学校教育課主査、土橋学校教育課主査 |
| 議 事 | <p>1 開 会</p> <p>事務局) 吉川学校教育課長</p> <p>本日の会議に当たり、急遽ご都合がつかなくなられた役員の方が多くなり、本来であれば、会議日程を改めさせていただくところであるが、過日の検討市民会議にて延長いただいた委員の皆様は任期が3月31日までであり、さらにあらかじめ伺った役員の方々の日程上、3月中の会議開催が困難であることから、委員長と相談の上、欠席された方より事前にご意見を伺い、その上で本日出席いただいた役員の方々にご検討いただくこととさせていただきます。</p> <p>各役員了承</p> <p>2 委員長挨拶</p> <p>・土居委員長より挨拶をいただいた。</p> <p>3 説明・協議</p> <p>(1) 「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議」のあり方について</p> <p>・事務局)土橋主査より「会議資料(「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議」のあり方について)」及び「別添資料(「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議設置要綱 新旧対照表」)」を用いて説明を行った。併せて欠席された役員の意見を報告した。</p> <p>欠席役員意見</p> <p>・ 「今後における本会議に求められる役割を踏まえると、例えくだらないと思われる意見であっても自由に言い合えるように、まずはより多くの発言を積極的に行いやすい環境としていかなば議論が具体的に進んでいかないと考える。そういった意味からは、事務局案に異存はない。</p> <p>しかし、より議論を活発にしていく上で、全体の会議よりも役員会に関係者や有識者等を招き、より具体的なアイデアを出し合うよ</p> |

うな運営も重要であるとする。」

- ・その他役員からも事務局案に特に反対意見なし。

・ **委員長**

資料1枚目の役割について及び議論を深めやすい環境とするための捉え方に関わり、ご意見等をいただきたい。

各役員了承

・ **委員長**

次頁の見直しの方向性に関わり、ご意見等をいただきたい。

・ **役員**

中学校関係においては、やはり各中学校から校長とPTAをそれぞれ選出すべきではないか。

学校サイドの考え方とPTAとしての考え方にどうしても違う部分が出てくるのではないかと考える。

各校それぞれの考え方もあるであろうし、校長の考え方をPTAが認識しているかといえば必ずしもそうではない。また、会議の場に出てきた事柄がすべて学校にフィードバックされるかといえばおそらく難しいであろう。そういうことから、4校それぞれ両者の出席が必要なのではないだろうか。

組織のスリム化ということもあるが、この部分は気になる。

・ **委員長**

事務局としては、今のご意見をどう考えるか。

・ **小田教育長**

PTAに関しては4名という必要も感じているところである。しかし、校長に関しては、校長が自校のことだけを述べるということではなく、校長会という組織の代表として統一的な観点から発言を行うべきなのではないかということで我々も悩んだ。極端に言えば、校長が会議の場において、それぞれバラバラの意見を言うということは望ましくないと考える。

・ **役員**

校長会があって、各校長で意思統一され、各校に進路指導が行き渡っているとすれば、実際問題として一番重要となるのはその進路指導のときであるとする。教職員がどれだけ子どもたちの特性などを見いだしてうまくやっていただくかということを考えていかなば、この問題はなかなか解決いかないように思う。校長会としての統一的な見解ということは理解で

きるが、PTAについては4校からの選出が望ましいと考える。

・役員

この会議の役割が、市内の高校の全体的な問題を検討することであるということからは、高校の入口としてやはり中学校のPTAは各校1名ずつ出席いただくことが望ましいと思う。各校により異なった状況や意見があるだろう。

・委員長

皆さんのご意見により中学校PTAに関しては、各校それぞれからの選出とすることとしたい。

中学校長に関しては、いかがか。

・役員

校長会の意見は統一されているはずであり、組織規模の見直しということから考えると、中学校長は1名でも良いと考える。また、1名の方が校長も発言しやすくなるのではないかと考える。

・委員長

それでは、中学校PTAは4名、中学校長は校長会から1名とする。中学校関係以外の委員構成についてはどうか。

・役員

中学校も高校も含めてであるが、実際に進路指導の教員の意見を聞く場はないのか。特に中学校の進路指導については、高校に入学してから実際にどのような就職や進学の道が開けているのかということを中心に理解しているかということも重要な問題であるように思う。

・早瀬指導参事

学校に進路指導担当の部署がある。校内においては、1年生のうちから進路指導を行わなければならないということで、いろいろな資料を提供するなどしている。職業観の育成や、2年生ではキャリア教育ということで職場実習なども行っている。いよいよ3年生になると進学指導を行うこととなる。

・役員

中学校の進路指導の担当は、高校の担当の話聞く場はあるのか。

・早瀬指導参事

高校の入学説明会にも訪れており、また、高校からも中学校に来ていた

だいている。詳細まで熟知することは難しいであろうが。

・ **役員**

高校を卒業するときの進路指導との関わりも作っていくべきでは。

・ **役員**

中学生が高校に入学するときには、ある程度の目標を持って入る生徒もいるが、保護者がとりあえずそこに行くようにということで何も知らないで入学する子どももいる。いずれにしても小中高の連携ということが弱いように感じる。

・ **役員**

できれば本当はそういったことも必要であると考えて。

・ **早瀬指導参事**

私も経験があるが、中学校で三者面談ということを行っているが、その中で親子で意思が一致していて進学先が決まっているというケースにおいてはそれ以上にあまり関わりを持つことはなく、進路を迷っている家庭に対して深く関わりを持つということになる。そこに落とし穴があるように思う。例えばどの高校に行くが決まっているのであればその目標に向かっての後押しをしていくだけであり、その高校に決まるまでにどのような親子の対話があったのかということまで関わりを持つことは難しい。

・ **役員**

どうしてその高校なのかということをきちんと聞いてあげなければならぬのではないかと。

・ **早瀬指導参事**

高校選択に当たってはいろいろな資料を提示して考えてもらうように指導を行うが、具体的に一人ひとりに将来はどうなるのだというところまでは指導は徹底されていないと思われる。決めかねている子どもには濃く関わるのだが。

・ **役員**

中学生の教員と高校の教員があまりしっかりとっていないようにも思うが。

・ **早瀬指導参事**

どちらかと言えば関係は、深くもないが浅くもないという感じであるように思う。

・委員長

先日の検討市民会議においても滝川工業高校に関して議論を行ったところであるが、進路指導においては、成績だけではなくて将来どのようなことをしたいのかということ話し合っていくべきであると、ただ単に普通科に行きたいということだけではなく、高校に入学するときから、将来の目標に向かってこの学校に進学したいという、そういうことまで中学校の進路指導のできるのであれば望ましいという話もあったかと思うが。

・早瀬指導参事

一方では、役割として、学校は資料や情報を提供し、それに基づき結論を出すのは教員ではなく家庭であるべきという見方もある。結局行きつくところは、学校と家庭の連携や、中高の連携ということとなってくる。また、職業観や勤労観の育成については、小学校の段階から養っていかねばならないことから、そういったことを含め中学校に集中するというのではなく、様々な連携の中で進路指導を行っていくべきであると思う。

・役員

こんなことをやりたいと言ったときに、いろいろな選択肢を示していただくというだけでも良いのでは。

・早瀬指導参事

こんなことをやりたいと言ってくれる生徒はむしろありがたい存在であり、何をやりたいか分からないという自分探しの途中である生徒が多いということが難しい部分である。

・委員長

進路指導に関して様々な意見があったが、委員構成・役員構成については、ほかに修正はないか。

各役員了承

・委員長

それでは、最後の頁についてはどうか。

・役員

関係者の出席について、同窓会は今後関係者としての出席となるかと思うが、全体の検討市民会議だけでなく、役員会にも出席し意見をを行うことが可能なのか。

・土橋主査

議論を深めていただくためには、全体の会議であっても、役員会であっても、必要な場面に柔軟に出席いただきたいと考えている。

・役員

先日の検討市民会議においては、特に滝川工業高校に関する問題が多く、そういった場面においては、他の2校の同窓会の方はなかなか発言することは難しいだろうと考える。

そういったことから、案のように母校に関わる問題の際には、その学校の同窓会が当事者として検討市民会議でも役員会でも出席するということが意見がしやすい環境となると思われる。

・委員長

その他意見がなければ、この頁については事務局案のとおりで良いか。

各役員了承

・委員長

別添資料の新旧対照表については、先に修正を加えることとなった委員構成における中学校の校長・PTAをそれぞれ1名と4名とするなど事務局で調整いただくことで良いか。

各役員了承

・委員長

その他総体で何かご意見はないか。

・役員

今年においても滝川工業高校の活性化についての議論が行われるのか。

・吉川課長

今年においても、いろいろと議論や活動を行っていくこととなるが、活性化自体については、この会議というよりは、滝川工業高等学校の活性化を支援する会において行われていくこととなる。

・役員

滝川工業高等学校の活性化を支援する会も、この会議に出席することとなるのか。

・小田教育長

滝川工業高等学校の活性化を支援する会については、会長を始めとして構成されているメンバーがこの会議と重なっていることから、特にこの会議に参加するという形態は考えていない。例えば、会長がこの会議の委員以外の方であれば、関係者としての参加になることは考えられる。

・役員

高校の問題については今後ますます難しくなっていくことと思う。例えば、いわゆる大学全入時代に向かっていくなど、高校は大学進学の通過点としての役割が増し、高校のあり方ということが変わってくるだろう。そういった意味からは高校の適正配置ということも、高校教育のあり方ということもこの会議で考えねばならず、より先を見据えての議論の必要性が増してくると考える。

4 その他

・事務局) 土橋主査より

北海道教育委員会より4/28に「公立高校配置計画地域別検討協議会」を開催する旨の通知があった。平成19年に市内再編の問題が示されて以降委員長にこの協議会に出席いただいているところであるが、本日議論いただいたとおりその時期においては、本検討市民会議の見直しによる移行期であり、委員の皆さんの選出が終わっていない時期である。本来であれば、委員の皆さんの選出を終え、役員を選出をいただいた上で、委員長にご出席いただくべきところであるが、今回については、そうしたことが困難であることから、この役員会において、暫定的な措置として現委員長に引き続き出席いただくことと決定いただきたい。よろしく願いたい。

各役員了承

5 閉会

会議資料

「資料次第」
「会議資料（「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議」のあり方について）」
「別添資料（「滝川市高等学校教育のあり方に関する検討市民会議設置要綱 新旧対照表）」